

北神けいろうの国政報告：3月号

いつも大変お世話になっています。

平成22年度予算成立に奮闘！

先月今月と、国会対策副委員長として、今年度内に平成22年度の予算案を通すために、奮闘しております。

「民主党政権になっても、何も変わらない」と批判されています。しかし、まずは、民主党政権はじめての本格的な予算案を通していただきたい。そして、皆様にその効果を感じていただいてから、判断をしていただきたいと考えています。

私は、以前、財務省で国の予算編成を間近に見てきました。これまでは、前例主義の中で、毎年の予算は、少しずつ増えたり、減ったりするものでした。

政権交代の一つの目的は、皆様の税金の使い方を、今の日本や京都の実体にあったものに大胆に変えることでした。

前月号にも書いたように、今回の予算案でまさにこれを実現しました。

- ・公共事業 18.3%減
 - ・医療・年金・介護 9.8%増
 - ・教育 5.2%増
- などは、代表的なものです。

このうち、公共事業については、批判もあります。「亀岡、南丹、京丹波町のような農村地帯では、コンクリート事業が必要だ」と。たしかに、そのとおりです。

しかしながら、国家全体としては、むしろ、①人口が減っていくこと、②お年寄りが増えること、に対応しなければいけません。政治は、予算は、優先順位です。昔にくらべて、道路もダムもハコモノも充実してきています。むしろ、子育てを支える政策、医療、年金、介護を拡充する政策が喫緊の課題ではないでしょうか。

予算に「優先順位」と「メリハリ」を

むしろ、限られた予算の中で、地元でどういう事業を優先的に進めるのか。こうしたことについて、去年から、前原国土交通大臣に強く訴えてまいりました。例えば、

- ① 京都縦貫道の事業は、ほかの高速道路と違って、単純な延伸ではない。丹波一和知間のような「穴」が2、3ヶ所空いている。これを埋めることは、道路を延ばすよりも、同じお金でもずっと効果がある。
- ② また、縦貫道については、6月から無料化する。これは、特に亀岡で9号線は夜遅くまで渋滞している。渋滞したら、排気ガスも増える。こうしたことから、縦貫道こそ無料化にふさわしい。
- ③ 畑川ダムについては、ハツ場ダムと異なり、すでにダムの本体の工事が進んでいる。こうした事業を凍結することは、それこそムダである。

「コンクリートから人へ」という方針の下で、難しい舵取りを迫られています。こうした制約の中で、優先順位とメリハリをつけながら、地方の生活の叫び声を届けるために、強力に頑張っただけです。